

② 入試区分

編入学（Ⅱ期）

③ 出題科目

小論文

④ 出題の意図

古典～近代の日本文学・日本語学の専門的な学修を、日本文学科三年次に編入学して進めていくために必要な能力を測ることを目的としている。高校教科書等で学習することも多い古典文学作品の一節を読み、問いの指示に従って分析・考察し、それを指定の字数で過不足ない文章にまとめ、記述する。的確な読解、分析・考察の妥当性、文章の構成・表現・表記の適切さを見る問題となっている。

文学部日本文学科編入学試験問題

次の文章は、『十訓抄』の一節である。誰のどのような行為に対する戒めとして読むべきかについて述べなさい。解答に際しては、まず梗概(荒筋)を示し、続けて(考察)と記し、その行為を象徴する台詞を原文より「」を付して引用しつつ、誰のどのような行為かを明らかにし、夢の内容との関係について考察し、そこから導かれる教訓をまとめること。字数は全て含めて四百字以内とし、解答は解答用紙に記入しなさい。

右中弁^{これいへ}惟家といふ人ありけり。賀茂の社より申す事ありけるを、この人につけたりければ、世の末には、神も仏も欲の深くおはしますぞと言ひて、執り申す事もなかりけるに、

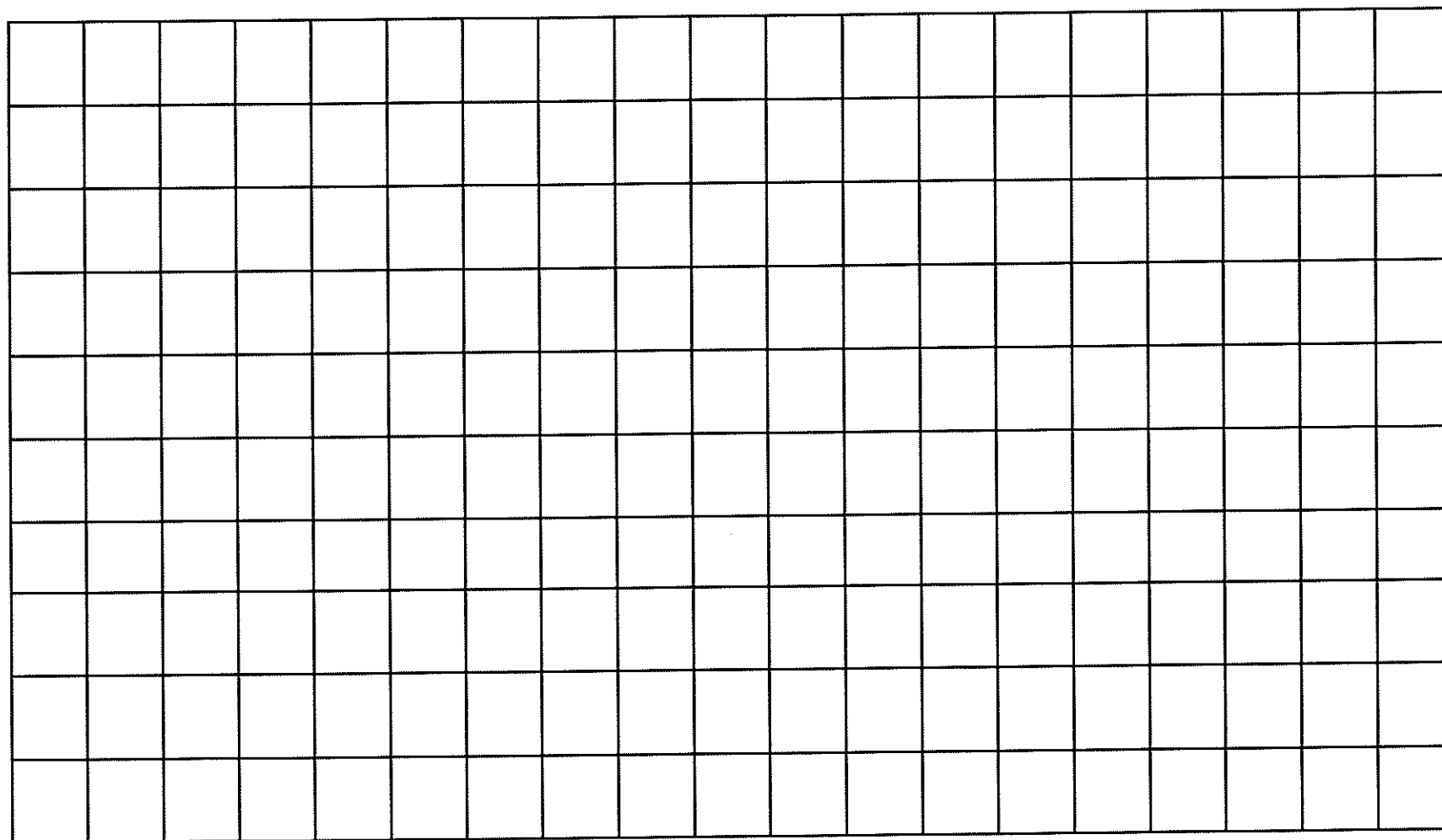
ある女房の賀茂の社に通夜したりける夢に、武者の姿したる者を召して、惟家の弁、ただいま召して参れと仰せ言あるを、承りて出ぬと思ふほどに、ほどなく帰り参りて、大般若経をよみ奉り候ふ時に、入るべき道の候はぬと申しければ、戌亥^{いふぬ}の角^{すみ}に、きたなき僧のある所より入れと仰せ言あると見て、不思議と思ひて、暁下向しけるに、京ざまにて、人々、右中弁殿、にはかに今夜うせ給ひたるとて騒ぎける、いとあさましかりけり。さとしもありて、大般若よませ、物忌などしけるとなん。

文学部日本文学科編入学試験解答用紙

受験番号

--	--	--	--	--

No. 1



№. 2

採 点 欄

No. 3

四百字